

園長あいさつ

「動物とのつながり」 園長 小松 守

2024年、開園51年目の春はゾウ輸送の大仕事で始まりました。東北の3つの動物園(仙台、盛岡、秋田)がアフリカゾウ繁殖計画を話し合い、2018年に仙台・秋田間でメスの交換が行われましたが結実せず、秋田の「花子」、仙台の「リリー」はこの春、元の園に戻りました。

6月5日、花子が秋田に帰ると「花子さん、お帰り」と来園者は笑顔で出迎えてくれ、また地元小学生が「ゾウさん堆肥」を使って栽培したスダックスを刈り取ってプレゼントすると、花子はおいしそうに食べてくれました。ゾウ

と来園者、子どもたちとのつながりは、とても心温まるものでした。飼育員も同じです。飼育日誌には「花子・帰郷後〇日目」の特別タイトルが付けられ、飼育員と花子との会話、健康チェックである運動や睡眠の様子、食事メニューと食べ方などが克明につづられ、「花子」との心のつながりが感じられ、あたかも我が子の成長日記のようです。

こうした来園者や子どもたち、あるいは飼育員とゾウとの関わりを見て、人と動物の「つながり」を改めて考えさせられました。開園50周年で園がテーマとして掲げた「つながり、ともに未来へ」を思い出します。動物園の存在意義が問われる時代、日本人が抱く独特の動物観に思いを広げながら、市民、来園者と動物とのつながりを考えることは動物園づくりの大事な道標でもあり、大森山動物園がずっと掲げてきたテーマ「動物と語らう森」とも重なります。



花子の歓迎会

こんにちは！赤ちゃん

マーコール

2024年5月31日に2年ぶりに生まれました。10歳で最年長の「クルミ」に1頭、その娘である5歳の「ゆべし」に双子、同じ日に3頭の子どもが生まれました。2歳の「みたらし」にも6月12日に1頭生まれましたが、残念ながらこちらは初産ということもあり、翌日亡くなってしまいました。「クルミ」と「ゆべし」の子どもたちは3頭で仲良く走り回っています。

8ページの飼育レポートもあわせてご覧ください。



8月1日撮影

2024年1月以降に大森山動物園で生まれた赤ちゃんをご紹介します。



5月31日撮影

ヨーロッパフラミンゴ

2024年7月16日に1羽ふ化しました。生まれて数日は巣の中で親から口移しで餌(フラミンゴミルク)をもらいますが、10日から2週間経つと巣から離れます。今では元気に歩き回ったり、親鳥のまねをしたり、元気にすくすく育っています。ヒナは、飼育員により「フランボワーズ(木イチゴ)」と名付けられました。

飼育動物数(6月末時点)

哺乳類 48種 340点	鳥類 26種 117点	爬虫類 12種 25点	両生類 3種 6点	魚類 3種 28点	無脊椎動物 1種 23点	合計 93種 539点
-----------------	----------------	----------------	--------------	--------------	-----------------	----------------

仲間入りした動物たち

よろしくね！

ニジキジ

15年ぶりに展示を再開しました。メスは他のキジの仲間と同様に地味な模様ですが、オスはメタリックな色合いのとてもキレイな外見です。ぜひ間近でご覧ください。



オス



メス(右)

アフリカゾウ(花子)



花子/メス

秋田市大森山動物園、仙台市八木山動物公園、盛岡市動物公園で2018年からアフリカゾウの繁殖プロジェクトを進めてきました。秋田と仙台の間でメスを入れ替えて6年経ちましたが、残念ながら2世の誕生には至りませんでした。6月上旬に「花子」は仙台から秋田に、「リリー」は秋田から仙台に、それぞれ元の動物園に戻りました。詳しくは4ページの特集をご覧ください。

大森山を後にした動物たち

元気でね！

アフリカゾウ(リリー)



リリー/メス



この他、シロフクロウ(メス)が旭川市旭山動物園へ移動しました。

訃報 忘れないよ...

カピバラ

2024年4月13日に亡くなりました。「ぐら」は2011年に当園で生まれました。双子の「ぐり」とともにたくさんの子宝に恵まれました。現在、飼育展示している4頭の群れのうち、マカロニとドリアはぐらの、グリーンピースと落花生はぐりの子どもです。



ぐら/メス

シンリンオオカミ

2024年7月23日に亡くなりました。2006年にカナダの動物園で生まれた「ジュディー」は2010年に来園後、オスの「シン」と仲良く暮らしました。2022年6月上旬に引退し、園内にある動物病院「森のびょういん」で余生を過ごしていました。晩年はかわいいおばあちゃんでした。



ジュディー/メス



コモンマーモセット

2024年7月28日に亡くなりました。「モモ」は2008年に甲府市遊亀公園附属動物園(山梨県)で生まれ、2011年に来園しました。オスの「イツキ」との間に40頭以上の子どもを出産し、当園の一大ファミリーを築きました。



モモ/メス

当園で久しぶりの誕生となったものの亡くなってしまった動物

5年ぶりにアムールトラ、10年ぶりにエリマキキツネザル、19年ぶりにカリフォルニアアシカが出生しましたが、残念ながら生まれてすぐに亡くなってしまいました。

この他、ホンダフクロウ、ブロンズトキ、ワオキツネザル、ニホンザル、イワシャコ、フンボルトペンギン、インドクジャク、アビシニアコロブス、モルモット、ヨツユビハリネズミ、コーンスネーク等が亡くなりました。